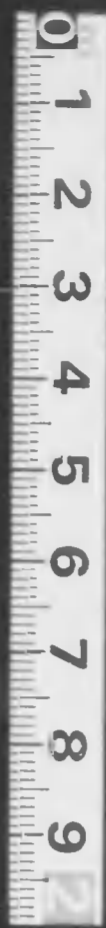


寫眞週報

情報局編輯
七月八日 第二廿八號



登山
攻略詳報



米も麻も甘蔗もゴムも
いきいきと延びてゐる
逞しい南方建設におくれをとるな
大東亞の指導者としての
心の用意はよいか
先づしつかりと自分を磨き鍛へよう



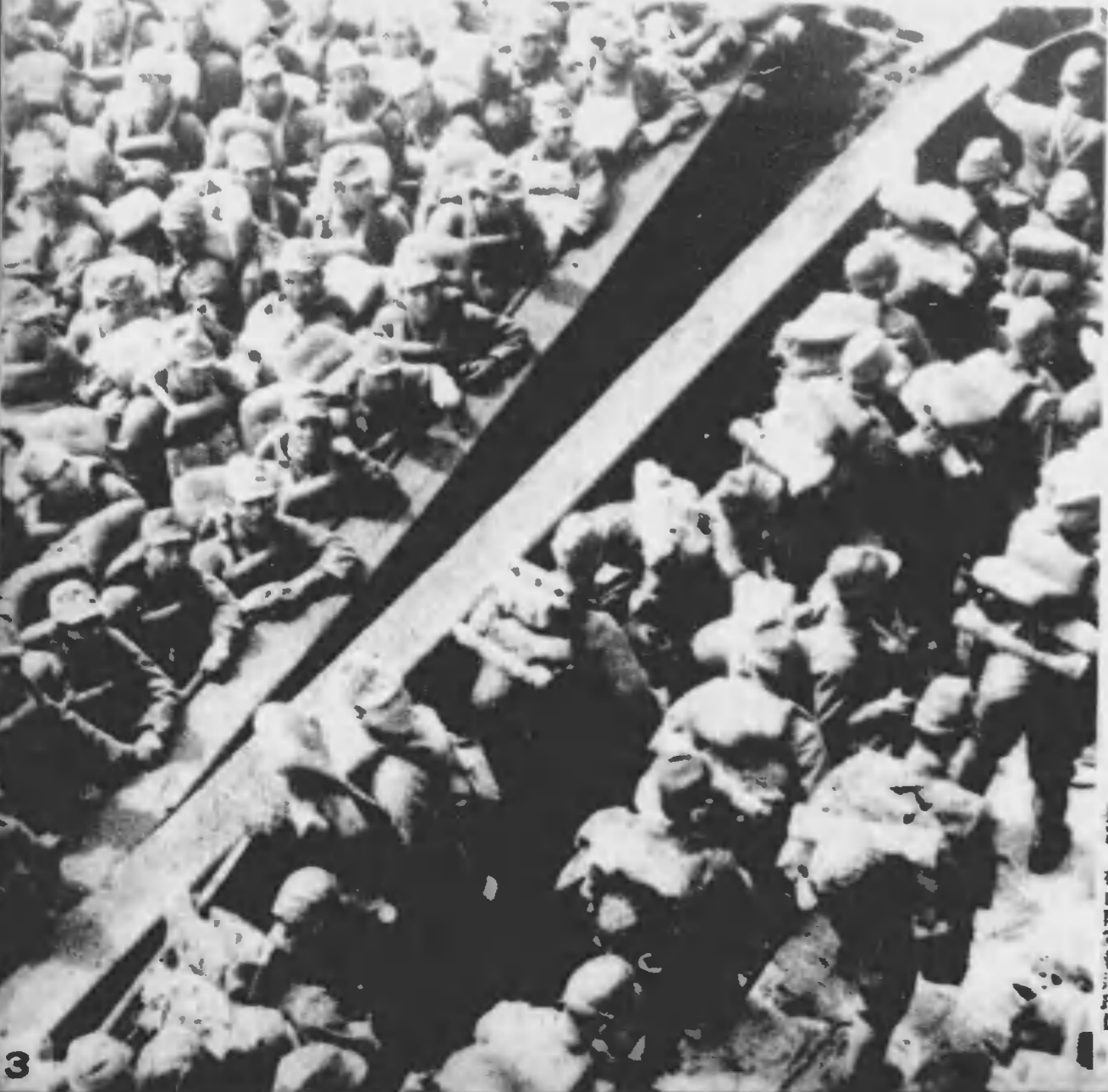
雪の濃霧地帯へも
アリューシャン攻略詳報

濃霧は深く、重く、暗緑色の海はうねりだうねつた。まことに、狂瀾怒濤の名にあたりする北洋の
戦況を聞いて、わが輸送船團はキスカへ、アツツへ進航する
撮影 陸海軍報道班員



帝國陸海軍部隊は六月七、八の兩日に亘つてアリューシャン列島の最西端アツツ島(熱田島)及
びキスカ島(鳴神島)を奇襲占領した
この兩島攻略は六月四日のダッチハーバーの惨憺と相俟つて米國の太平洋北方對日進路を寸断
し去つたものである。アメリカは戰前アリューシャン列島をもつて日本の鼻先に突きつけた「始
の線」と呼び、同列島に構築した飛行機、潜水艦の基地を心頭みに、未だ北方に對日反撃路ありと
考へてゐた。しかし敵側が進めてゐたこの心頭みはわが鋭い奇襲の前に、瞬時にして消え去つたの
である。今や對日進路の一切を失つたアメリカは、机上に擲けられた作戦地圖を顧んで、徒らに
長嘆息を洩らす外はないのである。これに引きかへ、わが方のアリューシャン列島の制壓は實に北
方敵本土に新たな快報地を確保し、北米本土に對して斷々平たる攻撃態勢をとり得ると同時に
わが北の護りはよく固壁の固さを加へたのである

輸送船をなれてアツツ島をめぐらして進んだ舟艇はサツと一齊に海岸に突込んだ。
時に六月八日第六回大詔奉讀日の夜明けである
撮影 陸海軍報道班員



キスカ島占領

六月七日



〇 旅費を費ひ、小銃を焚つて、勇士は歩きにくいことを知り、海岸の灘地を踏み、積草を浚するツンドラ地帯を征き、その間にここまで足に立つはるといふ、風雨のやうな嵐草を踏んで進む。

〇 逃げ残れた敵守備兵のゴップ、イルドとロンを捕へて訊問してみた。住民は何人か？ 十八人、女は一人もゐない。お前の雇はれてゐる会社は？ 会社ではない、ネーヴィー（海軍）光臨等は好きか？ 嫌ひだ。



〇 軍艦隊は白雲に映え、陸隊隊勇士は上陸に成功した。ガスは煙幕の目的地を深々と包んでしまつてゐるが、敵情はどうか、砲撃隊の眼は炯々と霧を通して光つてゐる。



〇 キスカ島攻めに参加のわが海軍大飛行機は巨大な翼をくつと張つて、機内に着水した。陸隊を導く大軍部隊を導く大軍部隊がくつと見守つてゐる。

アッツ島も占領

六月八日



神山陸軍病院
 の前でサリ／＼倒つたやうな傷病者の行列を運んで、山
 の頂上はガスで見えない。兵士は梯子をかけた。そして、兵士
 がついて一歩々々ちぎつてゆく



〇サリとガスが降れた。小手をかきして見れば、山頂から降
 雪の霧まで兵士の行列は消えてゆく。まるで白濁の上に平
 子粒を一粒一粒に降らせてゆく



〇「大急ぎで」雪の列のやうにつく。兵隊は列隊に急ぎを
 つた。頂上の上には雪をあらして凍つた山頂を歩む兵士のこ
 の様子。鼓動のわれ／＼に何の木も木柄がもたれぬ



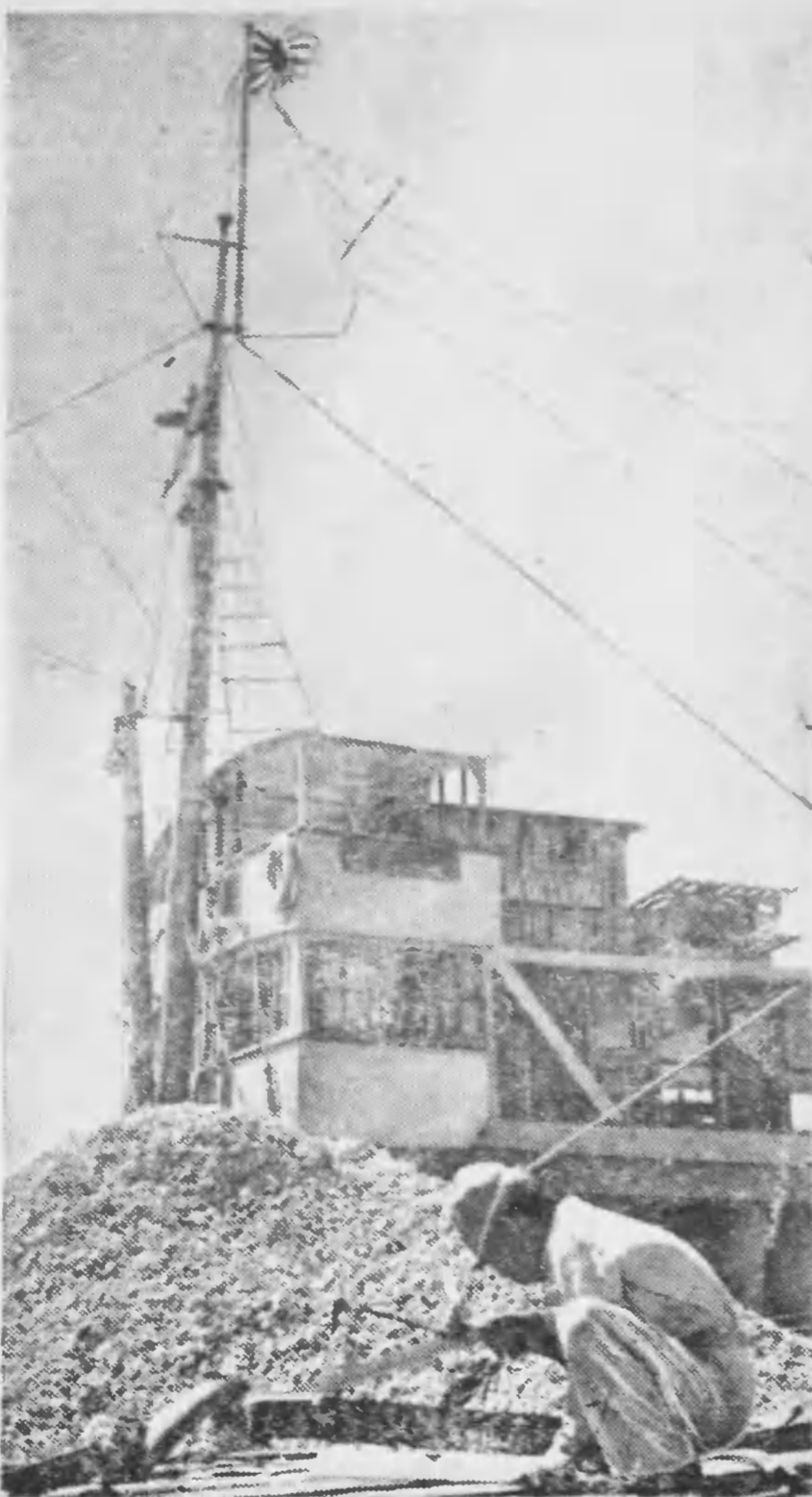
〇山頂まで、ところによつては雪まで流す。凍雪を踏みぬぐの
 である。兵隊はスキーを組んだ金ごしらへの輪を踏んで山を
 下り山を登る



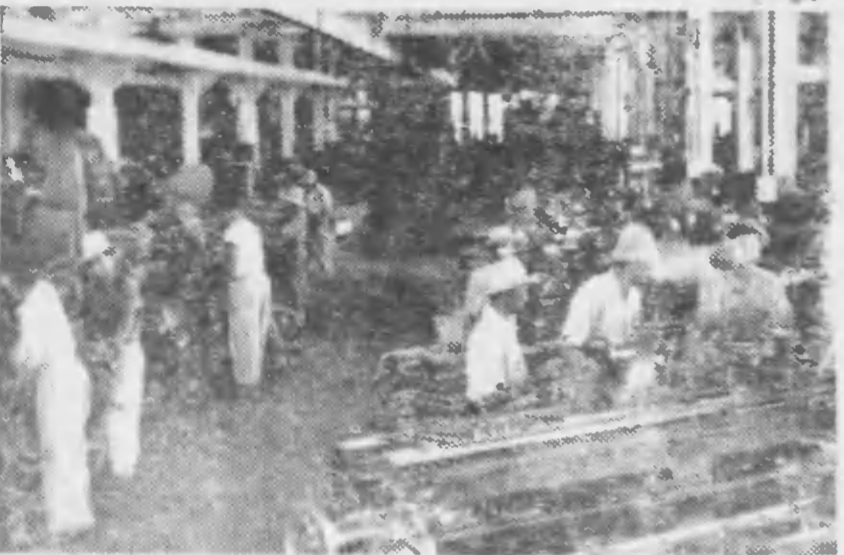
〇カンジキは穿いておいて、マラマの急降は歩いては下れな
 い。くつと雪の上を踏むを知らずとそそのま、一歩に二三メートルも
 トルも滑り降りる



焦大に萌える。比島キャビテ軍港復興



焼け跡は、片づけを積極的に申し出た比島人によって徐々に浄化されてゆく



焼け跡を片づけ、復興の足音を聞きながら、比島人たちは懸命に立ち上がり、復興の道を歩み始めた。この復興作業は、比島人の力によって進められてきた。復興作業は、比島人の力によって進められてきた。

戦火の中から立ち上ったフィリピンは、政治に、経済に、文化に、毎年のアメリカを象徴するマニラの獨立國といふ精神に燃え、素晴らしい進歩を遂げようとしてゐる。軍事の軍政に全面的な協力を惜しまないマニラ市長アルゼンティナは、立法議會を解散され、制度的にまづ米國民民主黨にまよふを許した。そしてまた中央行政機構は財政の基礎をかためるために、輸入品三割、準備品二割といふやうに、新増徴を課し、この税に並行して、米利取極令を用いて買占め、徴借しみを禁止し、タバコやマツチなどの生活必需品には固定価格を定めた。かうして政治経済の復興に奮起して去る六月一日には、約半夜に亘つて閉鎖されてゐたフィリピン小學校のちから公立小學校に開放され、一週二時間の日本語が正課として採用されるなど、東亜共榮圏の一環としてフィリピンは本格的な歩みを進めてきた。

一方、街の復興よりはどうかとみると、アメリカの焦下作戦から地味な全島各街々からは生産の備がし始めた。ピーナツ、ロソク、煙草、椰子油、製氷、精米、織物工場など、産業を初めとして、こゝに根拠をキャビテ軍港復興のガララに見るやうに破壊された跡の復興はどん／＼と進んでくる。

軍艦隊がへる下、炎天もいとはず比島人は黙々と港の復興作業に協力する。



復興だ、アジアのフィリピンへの門出だ。堅実な復興作業は進む

無事だった港内の工場では、海軍技術者の指導で力強く操業が始められた



三 邦 凌 員軍艦軍海

南進日本の姿

九州の南端から、セレベス島の首都マカッサルまでの距離は、約三千三百七十里...

明朗マカッサル

セレベス島の首都マカッサルの市街を歩いてみると、一頃の東京のタクシートのやうに、テイガ・ロダが小さな日の丸の旗をはためかしながら群つてくる...

こんちわア

巨大な支那大陸を片手で押へて英領香港、マレー、ビルマ、ボルネオ、米領フィリピン、蘭領ボルネオ、セレベスを占領して、日章旗をジャバにまで押し進め、いまやインド洋にオーストラリアに作戦してゐるのだ...

アメリカ、ホン!

マカッサルの郊外で自動車を買はしてゐると、不思議な材料に吸はれる...

拳銃一挺

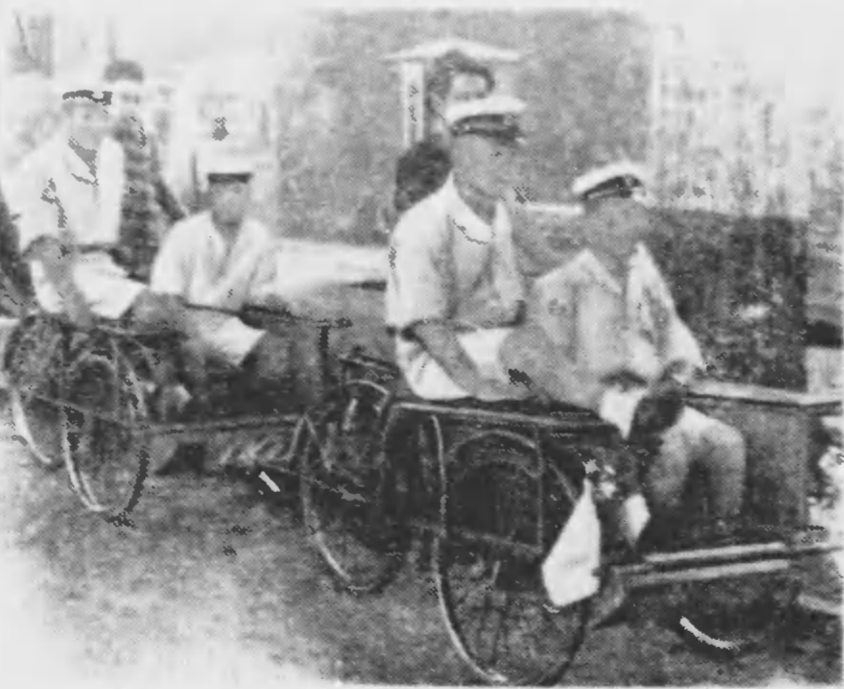
帝国海軍特別陸戦隊が、セレベス島の首都マカッサルの攻勢に、アメン、ペトバトの海岸へ敵前上陸した...

こゝに下供たすは、... 道を岐れてゐる街角に立つてゐるわけでもない、林の南端に箱を下げて、それを握りてゐるところを見るとき、どうやら「サーア」...

日本では道の四つ角に立つて、何方へ行かうかと考へる時など、『さて』といふ言葉が口を衝いて出る...

こんちわア

それを強く途方に暮れたり、判断に迷つたりした時には、言葉の方も強くなつて『さて!』となる...



セレベス生れの更生車に乗る兵隊さんたち

その鐵橋の近くには、マカッサルの市街へ電力を供給する發電所があつて、ペラン河を流つた奇襲部隊が急行した時には、早くも發電機のタイナモの中心部が抜き取られてゐる...

大東亞戦争日誌

二十五日 ●アメリシヤン列島方面に作戦中の陸軍軍は七日キスカ島を、八日アッツ島を奇襲し、艦隊が近隣の諸島を掃蕩中なる旨を知らせる

日本には早くから少年航空兵や少年砲兵といふ制度があつて、こゝから
 歩立つた勇士は支那事變でもこんどの大東亞戦争でも實にめざましい手柄を
 立てゝをり、近くは少年砲兵も生まれることになつてゐますが、盟邦の滿洲國
 でもこんど初めての試みとして少年技術兵を國軍飛行學校内で養成してゐ
 ます。

これはますます強力な機械化をめざしてゐる滿洲國軍に遅しい感力を
 ふたために、滿洲少年の特長である器用さをうまく活かしてこれを技術の上か
 ら育てあげ、將來は國軍の技術兵科に少年兵制度を作らうとする意欲深いも
 のであつて、いま、日本のやうに強い國になるための産業五年計畫といふ
 大計畫をやり遂げようとしてゐる滿洲國が、技術の上からも大いに進歩し
 なければならぬといふ點からみても、この少年技術兵にかけられてゐる期
 待は大したものです。

さて、現在技術兵中隊に入隊してゐる少年兵は昨（庚辰）八年四月の國民學校
 卒業生から採用したものを第一期生とし、今年四月の國民學校卒業生から第
 二期生を採用、さらに、明年四月頃には第三期生を募集する豫定で、これらの
 少年兵たちは約三ヶ年間の、厳格な軍隊教育を受けた後、精密な機械製作
 時を扱ふ航空部隊の整備の方をうけ、
 つ下士官になれることになつてゐます。
 この三ヶ年の訓練期間のうち、まづ三
 ヶ月間は軍隊としての一般教育をう
 け、次いで三ヶ月間、技術上の教育を
 さづかつてから飛行機發動機の整備に
 ついての教育をうけることは勿論、電
 氣、熔接、機械等各科について専門的
 な教育も受けることになつてゐます。

時城工場には旋盤、熔接、鍛工作
 業場が設けられ、分科教育に入つ
 た第一期生が重工業部門の豆蔵
 士として機械に向つて少年らしい
 熱情を注いでゐます。



僕等は滿洲の 少年技術兵

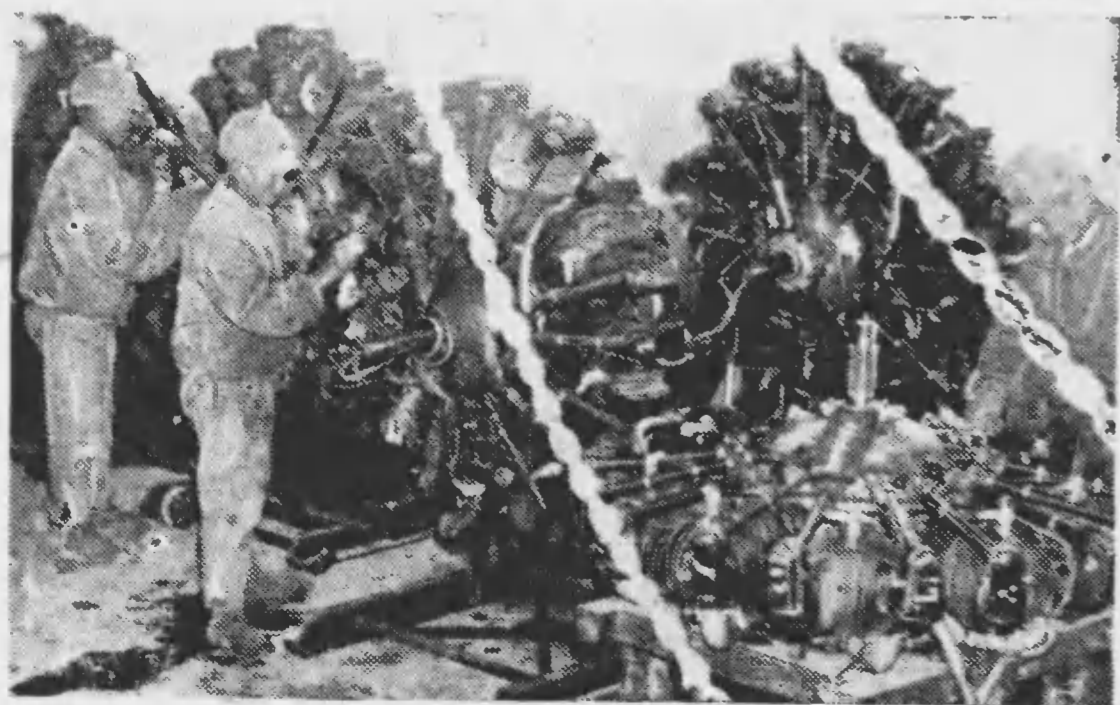
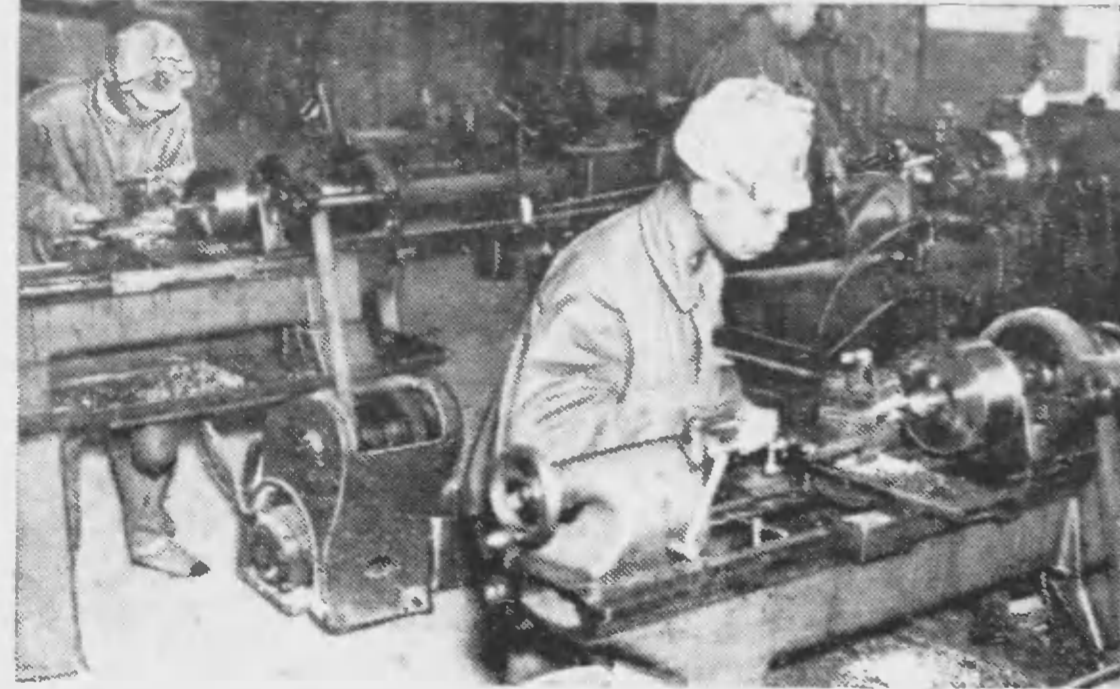
社信通張滿南 影撮



まづ立派な軍人とならねばなりません。嚴格
 な訓練が日一日と少年たちを鍛へてゆきます。

少年たちは午前六時
 起床、乾布摩擦、點
 呼、帝宮並に並進
 を進歩後、嚴格な訓
 練を行います。

格納庫の前に飛行機
 は曳き出されました
 さあ、手入れです。
 一人前の技術兵とし
 ての希望が彼方に待
 つてゐます。



米一粒麦一粒も 増産へ

皇土に實つた一粒の米、一粒の麥——この中に無限の國力が秘められてゐるのだ。祖宗から賜はつた種子を護り育て、父から祖父から、またその祖父からと享けついできた田に畑に汗の肥料を灌いで、營々と耕してきた農土達の増産への努力、これは又子へ孫へ、そしてまたその子へ孫へと傳へ傳へられていよく美しい國土となつてゆく。皇祖のお告げ遊ばされた『豊葦原のうまし國日本』こそは君達の手ていよくうまし國となるのだ。大陸にも南方にもいまは美しく麥穂が出揃ひ、瑞々しく稻が育つてゐるであらう。だがそれを育て指導してゆくのはわれ々の務めなのだ。作る者も食べる者もそこに思ひを致さう、食糧の増産に課された任務は重いのだ。

滋賀県三上山村御上神社神田の田植祭である。羽衣に身を包んだ村人は奉納した田植歌に神代以來の國の國の國を、時下日本の豊かさを祈りまつる。村長 石長 一郎



戸田侍従 八ヶ岳山麓を視察

名も無い民草にまで注がせ給ふ長き邊りの有難い御仁慈は、つひにいたらぬ賜もなく、聖賢を奉じた戸田廣英侍従は、六月中旬、海拔四千尺日本の國境ともいふべき甲信境の山麓にまで遠征の足をふみ入れ、寒さとた、かひながらもひたすらに増産にはげむ村人たちの土の生活を観望されました。

また山々に雲を醸す霞の國を眺めつ、山峽に米つくる人たちも、谷間に幾層も人たちも、つゞれの土を耕ひかぶりをつつて、ひとしく侍従をお迎へしたのです。

人手も足りなからう、肥料はどうかと一々訊きたゞされるもつたいなさよ。たとへ人手が足りなからうと肥料が十分でなからうと、何の勞苦を何の泣きを、老いも若きも節くれた手に涙をぬぐつて、大御心の懸けなさにむせび泣いたことせう。

陛下の土を耕し、み國の實を産み出すこの尊いなりはひとこそ、子々孫々にまで受け継がせて、うまし國土をいよく豊かに増産しなければならぬと、侍従をお送りする村人たちの思ひは同じでありました。

寒冷地で豊かな収穫に見入る戸田侍従

今年も増産増出 マキのたくした上へ

ことし、牛島の
農産物は、若者男
女が文字通り國民
總力の奮ひをはけ
び、大躍の兵站基
地にふさはしい儲
けだ



田舎の農産物の小女ちゃん小女ちゃん
たさへ、村の井戸から水を運ぶ小女ちゃん

つひ昨年まで牛島では、婦人の外での仕事といへば、漬物ぐらわが關の
山だつた。ところがこんどの大躍が始つて敵は米英ときまつてから、そし
てもなく息子たちも 天皇陛下の殿様として勤勞へ出るといふことにき
まつてから、彼女たちの氣持はがらりと一變した。兵隊二つの意いお役目
がわたしたちの上にかゝつてゐる、かうしてはゐられないぞ、かくて金餅
の婦人たちは期せずして普選運動へ奮ひ立つたのだ
いま朝鮮の難題、愛國黨の共同作業で大躍ひの各村落には、男に伍して
働く牛島婦人の眞剣な姿が見られ、まことに驚かすべく、男に伍して
働くの美しい風景だ
年産さつと二千五百万石、大躍下におけるわが國の食糧問題解決に大き
な役割を果してゐる朝鮮米の増産に、内鮮一體の汗を流す牛島婦人の、働
きぶりを京畿道金浦郡東面の木浦里新村に拾つてみよう

小石 嶺

農會の集會所が共同託託所にあつて、年産子供無敵も一躍の和やかさ



お井のサイレンが鳴りわたると、一躍に農産物、工場でも新機でも田舎でも



白い牛島産物は溢みみれたが、一國民總力を旗印に、苗をもつ農産物は前らかた



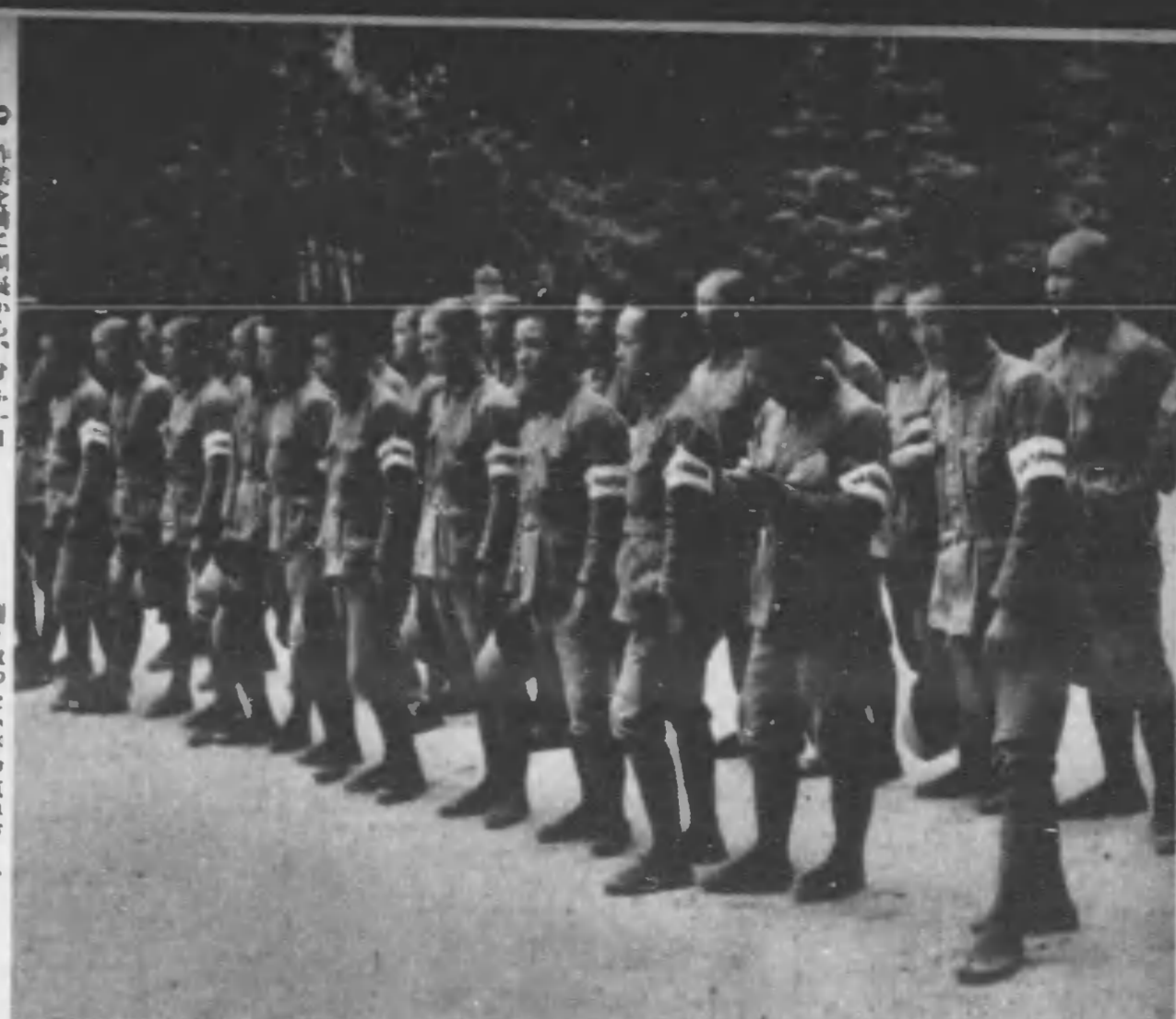


夏かに買ったたぎの東が朝にどつしり降りかゝる。光る雪の徳、かすむ緑の山、内地は美しいなあ



作業を前に所長から、けふ一日の注意や訓示を受ける機関員

刈り取った小麦の束ね方も百軒さんの見よう見真似で



増産の第一歩

隊部年青島半の援應産増

日本精神に学ばず

朝鮮の大政翼賛会ともいふべき國民総力朝鮮聯盟では、こんど京畿道、忠清北道、その他各地の愛國隊員聯盟推進隊員等のなかから成績優秀な青年數十名を選抜して内地に派遣し、三農政策、滋養の三顧下で憲召農家に勤務奉仕をさせる傍ら、實生活を遍して皇國民としての誠感を積ませることとなり、一行は六月中旬機案期の内地に到着、直ちに各農村に配属されました。この一行はいづれも年齢十八歳から二十五歳までの青年で、出發前三日間農耕訓練を受け、歸國後は國民総力運動の指導者として大いに活躍を期待されてゐる、いはゞ日本精神體験の一行程です。

この青年たちはそれぞれ農家に分宿して、家族の一員として十分に奉仕し、併せて進歩した内地の農業技術をも歸國の土産にしよといふわけで、いま大變な張り切り方です。

これらの隊員のうち、京畿道から派遣された二十五名は、いま滋養縣の野州郡中里村で田植を中心とした農耕訓練の花を咲かせてゐますが、なほこの奉仕作業後は國內各地の參觀を行つて、皇國民としての誠感に最後の仕上げをすることになつてゐます。

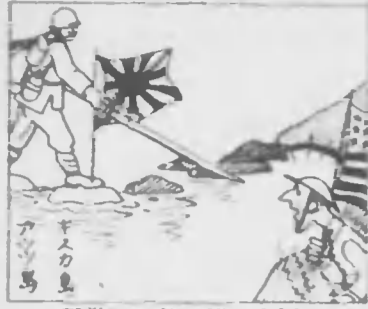
農家の人たちに混つて内鮮一體の和やかな脱穀作業



甘藷苗の植付方も教はつて農事技術もいろいろ身につけた奉仕したから増産の第一歩、けふは田植の仕方を教はる



大東亞戰爭漫日誌
石川 介進



米一畝も増産へ



猫様定 ちりとり一わらぬ



英兵の痛手 痛手は逃げ込め



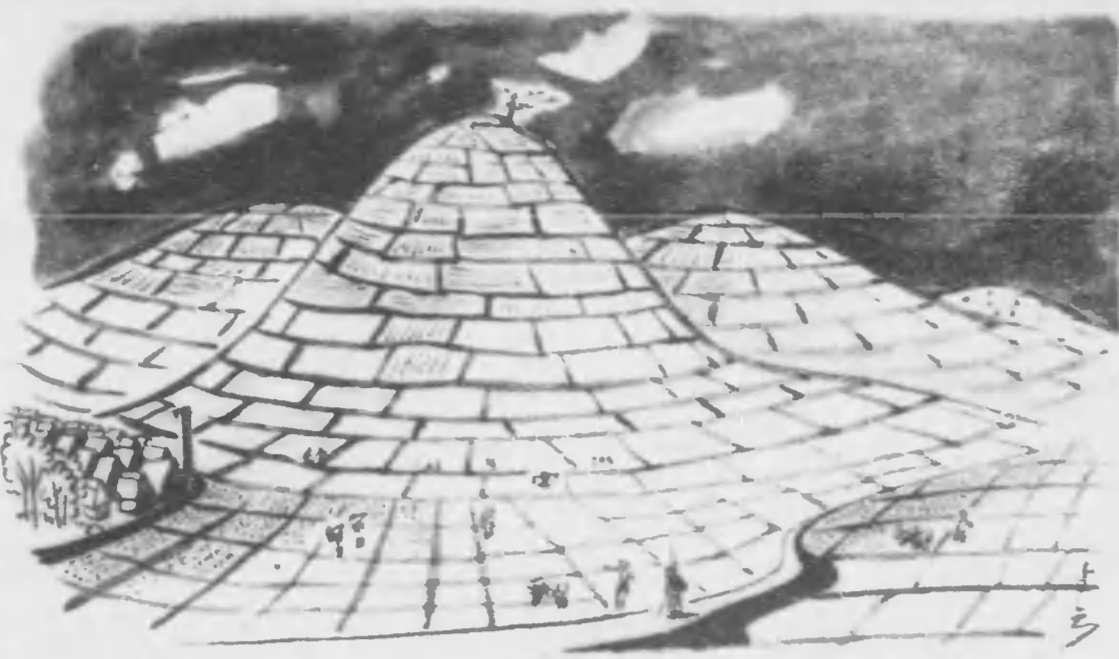
敗戦と二回涙目



米作の要領 水灌漑



在米同胞の船出



米一粒も増産へ

米一粒も増産へ

米一粒も増産へ



耕地面積百パーセント

共榮増産 模本映



頭をかき田舎の土産

小泉葉郎



米一粒も増産へ

水兵をながりすて、山口 角川 政治

東京高等師範学校勤勞隊第一班百四十名のころがね部

本報からあなたは何を学んだか
1. キヤベツ軍艦...
2. 新大に鳴神島と名づけられた...
3. カカス島...
4. アフリカとイギリスとの間で...
5. アフリカ列島列島攻略...
6. マレー語で「イカゴ」...
7. こんどの勤勞隊に朝鮮から...
8. 日本には少年戦車兵だとか...
9. トンガを占領した西伊軍は...
10. マカッサムの原住民の間で...

高橋通報 昭和十七年七月九日發行 第百〇〇號

高儲蓄組合新設



店捌賣債國用 業受引券證價有

小池證券株式會社

助之厚池小 長社役締取

内ノ丸區町總市京東 店本
岡崎・屋古名・阪大 店支

内閣印刷局印刷發行

（列強戰艦）A4時辰之民はるく天の空へ